

令和元年6月20日(木) No.438

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



# 里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年213名 2年176名 3年179名

<http://www.sato-chu.com/>

## 「はじめての〇〇」

校長 高田 晶子

空を見上げると入道雲が見られるようになり、暑い季節の到来を感じるようになりました。この季節以上に、学校総合体育大会では熱い戦いが繰り広げられ、里中生の飛躍を感じているところです。残る種目も期待しています。頑張ってください。



6月に入り学年行事や部活動の生徒たちの姿から、「はじめて」という言葉に、気づかされたことがありました。「はじめてのおつかい」というバラエティ番組をご存知の方も多と思います。生まれて初めて一人で「おつかい」に挑戦する子どもたちの奮闘ぶりを、ドキュメントタッチで描く番組です。おつかいの中で発生する様々なトラブルを乗り越えていく様子は、大人も考えさせられる場面が多くあるように思います。そして、人は幾つになっても「はじめて」のドキドキした場面に遭遇したり、人生の中で常に「はじめて」と向かい合わせて生活したりしているのだと思いました。

社会人になるまでは、毎日がわくわくした新鮮な経験の連続でした。毎日が新しく、例えば、定期テストは何回受けていても毎回新鮮なものでした。受け方はわかってきても、内容は同じ事はありませんでしたから。そこには、挑戦する気持ちも併せて湧き上がってきていたように思います。そして、社会人になり、今度は周囲の影響を受けながら経験を積んでいきます。時には、病院での経験など、したくなかった経験もするようになってきます。やはり「はじめての〇〇」は、わくわくドキドキして、人は幾つになってもそんな気持ちの中で生活していくのではないのでしょうか。

中学生になり、わくわくドキドキしながら「はじめての友達」を作り、「はじめての担任」に出会い、「はじめての定期テスト」を受け、「はじめての大会に出る」……。幾度となく挑戦し、打ち砕かれ、そして再び挑戦する。時に押しつぶされそうになることもありますが、皆、乗り越えられていると思います。また、乗り越えていかなければならないのです。

そこで大切なのが、「よくやったね」「頑張ったね」の周囲からのご褒美の言葉です。これが「はじめての〇〇」を支える力でもあると思います。幾つになっても褒められると頑張れるし、挑戦してみようと思えるのです。

里中生の日々の活躍のお陰で学校も活気が出てきております。里中生が「はじめての〇〇」に挑戦し、保護者、地域の皆様からのご褒美の言葉をいただけるように頑張ってください。応援よろしくお願いいたします。